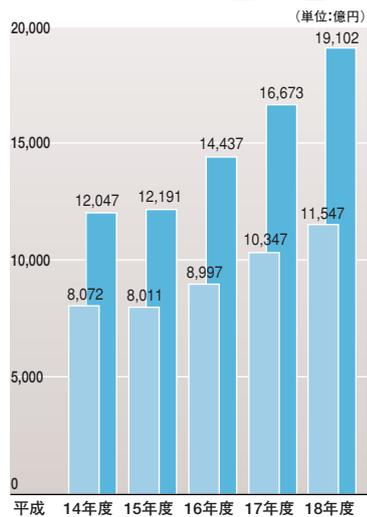


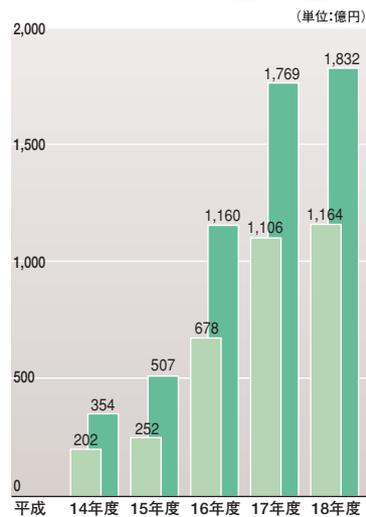
Financial Report 業績のご報告

財務ハイライト

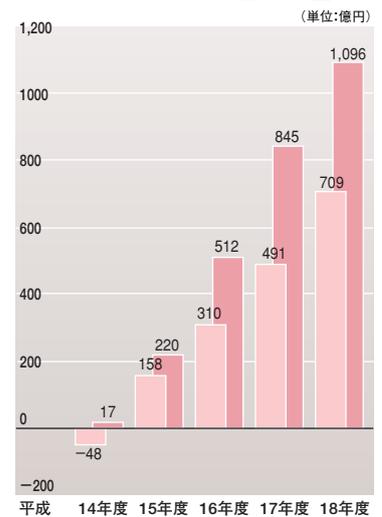
売上高



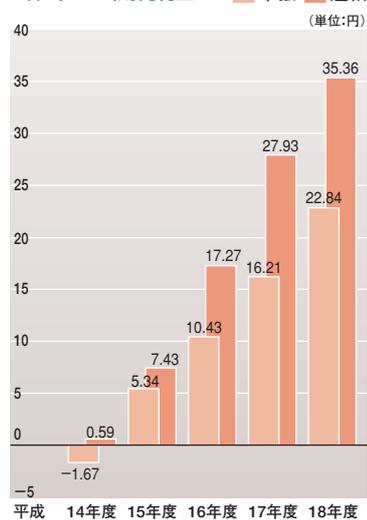
経常利益



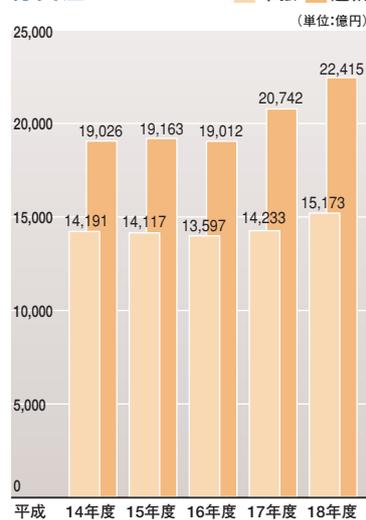
当期純利益



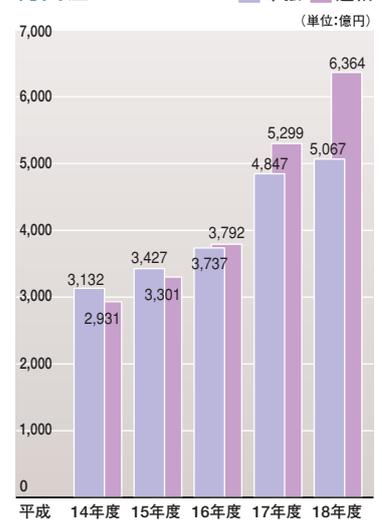
1株当たり当期純利益



総資産



純資産



当期の概況

当期のわが国経済は、企業収益が高水準で推移する中、民間設備投資が増加したほか、雇用者所得も緩やかに増加を続け、個人消費も底堅く推移するなど、景気は緩やかに拡大いたしました。海外においても、中国を始めとするアジアを中心として、世界的に経済は拡大いたしました。

当期の連結業績は、売上高は前期に比べ2,429億円増収の1兆9,102億円となりましたが、営業利益は、総平均法による在庫評価に伴う収益押し上げ効果が減少したこと、機械装置の減価償却方法の変更によって償却負担が増加したことなどにより、117億円減益の2,086億円となりました。一方、経常利益は、持分法適用会社の収益改善などにより営業外損益が好転したことから、63億円増益の1,832億円となりました。また、税引き後の当期純利益は、固定資産の減損損失、環境対策費用を特別損失として計上したことなどから1,096億円となりました。

単独業績につきましては、売上高は前期に比べ1,199億円増収の1兆1,547億円、営業利益は225億円減益の1,198億円、経常利益は受取配当金の増加などにより58億円増益の1,164億円となりました。また、税引き後の当期純利益は709億円となりました。

鉄鋼関連事業

国内の鋼材需要は、自動車・造船などの製造業向けを中心に、好調に推移しました。また、汎用品の需給軟化を受けて積み上がっていた国内在庫も、順調に削減が進みました。輸出についても、高級鋼分野が好調を持続したことに加えて、汎用品分野についても世界的な需要拡大を背景に堅調に推移しました。このような状況の中、当社は、製造業向けの高級鋼を中心に、旺盛な需要の確実な取り込みに努めたことにより、鋼材出荷数量は前期を上回り、また、販売価格についても、値上げが一部進展したことなどから、若干上昇しました。鍛鋼品については造船分野向け、

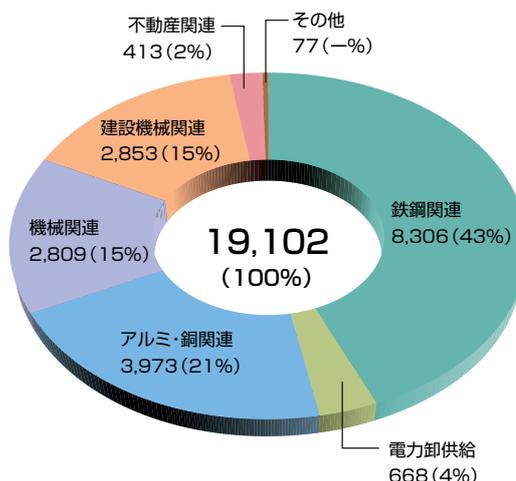
チタン製品については航空機分野向けなどを中心とした旺盛な需要を背景に、売上高は前期を上回りました。

溶接材料の需要については、国内は造船、自動車向けを中心に好調を維持し、海外についても造船、エネルギー関連プロジェクト向けなどを中心に堅調に推移しました。

この結果、当事業の売上高は前期比10%増の8,306億円となりました。一方、営業利益は、前期に収益を大きく押し上げた在庫評価影響が減少したことや、減価償却方法の変更の影響、加えて、環境保全工事に積極的に取り組んだ影響もあり、前期に比べ363億円減益の945億円となりました。

■今後の課題…鋼材分野において、製造業向け高級鋼の拡販に引き続き努めるとともに、鍛鋼、チタンの分野では需要拡大への対応を図ります。また、高炉改修など実施中の設備投資案件を確実に立ち上げ、その投資効果を早期に最大限発揮することにより、製造技術を強化し、省エネルギー・コストダウンを進めるとともに、安定した生産体制の構築、環境配慮への一層の取り組みを実施いたします。加えて、中長期的な観点から、原料の安定調達の確保、技能継承の円滑な推進など、事業基盤の強化に着実に取り組んでまいります。

■セグメント別売上高(平成18年度) (単位:億円)



(注) その他には「電子材料・その他の事業」とセグメント間の内部売上高等の消去額が含まれております。

●鉄鋼関連事業



自動車用弁ばね

電力卸供給事業

現在、神鋼神戸発電所では、最大出力140万キロワットの電力を供給しております。当事業の売上高は、電力単価に転嫁される石炭価格の上昇により、前期比3%増の668億円となり、営業利益は、安定操業の

ための設備保全費用増加などにより、前期に比べ15億円減益の180億円となりました。

■今後の課題…設備保全の更なる強化や操業技術の蓄積を図り、安定操業の継続と収益の確保に努めてまいります。



神鋼神戸発電所

アルミ・銅関連事業

アルミ圧延品の販売量は、飲料用缶材は天候不順の影響により減少したものの、国内、輸出とも自動車向けや、半導体製造装置向け板材、アルミディスク材などが堅調に推移したことから、前期並みとなりました。

銅圧延品の販売量は、板条が自動車用電装部品向けを中心に電子材料分野において引き続き堅調に推移したことや、銅管が海外を中心に増加したことなどから、前期を上回りました。

アルミ鋳鍛造品については、液晶向けが調整局面にあるものの、自動車向けの売上数量、売上高ともに好調に推移しました。

全体としての販売量は前期並みとなったものの、地金価格高騰の影響等により売上高は前期比30%増の3,973億円、営業利益は、113億円増益の346億円となりました。

■今後の課題…今後も拡大が見込まれる自動車・IT関連分野を重点分野と位置づけ、経営資源を積極的に

投入してまいります。また、地金価格の高止まりによるコストアップに対し、販売価格の改善に努めるとともに、既存設備の能力増強などを実施し、品質と生産性の向上に取り組んでまいります。



アルミ鍛造サスペンション部品

機械関連事業

国内向け受注高は、好調な民間設備投資を背景に、圧縮機、圧延機械などが堅調に推移したことや、廃棄物処理および污泥処理の大型案件を受注したことなどにより、前期を上回りました。また、海外向け受注高も、中東やアジア、北米での石油精製、石油化学、エネルギー業界における活発な設備投資を背景に、圧縮機や樹脂機械、石油精製用の高圧容器などが好調に推移したことや、大型の天然ガススペースの直接還元

製鉄プラントを受注したことなどから、前期を上回りました。

この結果、受注高は、前期比29%増の3,086億円、当期末の受注残高は3,061億円となりました。

また、売上高は、前期比8%増の2,809億円となり、営業利益は前期に比べ117億円増益の221億円となりました。

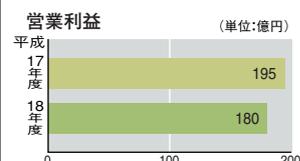
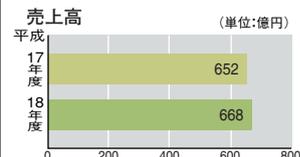
■今後の課題…機械関連事業では、好調な需要環境を収益に確実につなげるべく、基盤設備の増強による、

生産能力の確保、品質向上やコストダウンに取り組んでまいります。また、直接還元製鉄プラントや次世代製鉄法などの新鉄源ビジネスへの取り組みを一層強化し、収益源としての育成に努めてまいります。

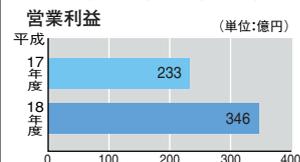
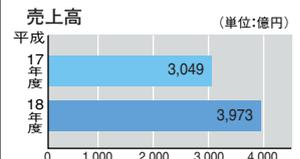


高圧スクリュ

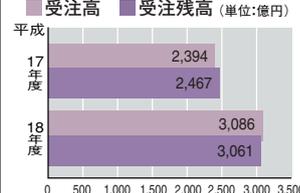
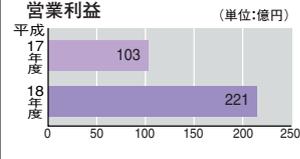
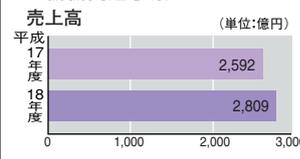
●電力卸供給事業



●アルミ・銅関連事業



●機械関連事業



建設機械関連事業

油圧ショベルの国内市場は、公共工事が引き続き減少傾向にあるものの、堅調な民間投資や中国など海外市場への中古車輸出による国内ストック台数の減少などを背景とした更新需要に支えられて、好調に推移しました。海外についても、米国市場に減速感がみられるものの、中国市場が急速に回復・拡大したことなどから、総じて好調に推移しました。また、クレーン事業についても中東や東南アジアを中心に好調に推移

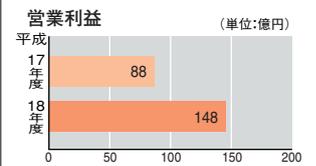
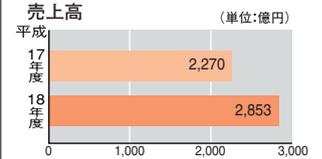
したことから、売上高は前期比26%増の2,853億円となり、営業利益は前期に比べ59億円増益の148億円となりました。

■今後の課題…建設機械関連事業では、好調な需要環境が継続する中、海外展開を強化し、販売台数の更なる拡大を目指すとともに、事業環境の変化に対する適応力の強化を図るべく、事業基盤強化策を推進してまいります。



油圧ショベル (アセラ・ジオバック) SK200

●建設機械関連事業



不動産関連事業

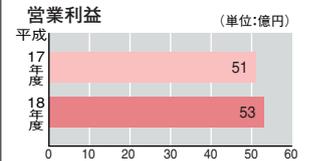
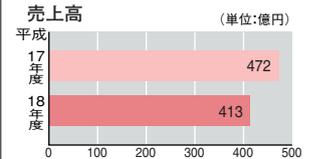
分譲マンションの引渡し戸数が減少したことなどから、売上高は前期比12%減の413億円となりましたが、営業利益は、コストの改善などにより前期に比べ若干増益の53億円となりました。

■今後の課題…不動産事業部では、開発用地の計画的な取得と事業競争力強化に向けた施策を推進します。賃貸・ビルマネジメント事業等では、優良賃貸資産の拡充、最大受注量の確保による事業規模の拡大を推進してまいります。



(仮称) 淀屋橋共同ビル

●不動産関連事業



電子材料・その他の事業

液晶ディスプレイの在庫調整の影響ならびに代替素材との競合によって、配線膜用ターゲット材の販売量が減退したものの、エレクトロニクス関連を中心とした試験分析需要を着実に取り込んだことなどから、売上高は前期比4%増の635億円となりました。営業利益は、配線膜用ターゲット材の需要減退の影響もあり前期に比べ

31億円減益の143億円となりました。

■今後の課題…液晶ディスプレイ用ターゲット材における代替素材との競争激化に対し、新製品の早期実用化を推進するとともに、生産性の向上やコストダウンなどを着実に実行することにより、収益の確保を図ってまいります。



ターゲット材

●電子材料・その他の事業

